

平成21年度 自己評価実践報告書

福島県立双葉高等学校

1 自己評価の概要

(1) 「学校経営・運営ビジョン」について

平成18年度に「双高ビジョン21世紀プロジェクト委員会」を立ち上げ、地域の中学校の生徒や保護者等にアンケートを実施し、平成19年度にその結果を分析して提言されたことについて検討した。そのことを踏まえて年度当初に重点実践目標を定めるとともに、それらを達成するための具体的目標について、各部・学年において前年度の反省を生かしながら策定した。

(2) 自己評価年間計画について

3～4月	「学校経営・運営ビジョン」の策定 保護者等へ公表（PTA総会・ホームページ）
4～9月	実践
9月	中間評価・保護者等へ公表（文書配付・ホームページ）
10～2月	実践
2月	年度末評価・保護者等へ公表（文書配付・ホームページ）

2 評価結果の概要

(1) 実施方法等

学校経営・運営 ビジョンにおける 重点実践目標No.	重点実践目標に対応する具体的目標の実践・評価部署								
	教務 部	生徒 指導部	進路 指導部	保健 部	図書 部	1 学年	2 学年	3 学年	その 他
1		○		○		○	○		
2	○		○			○	○	○	
3		○		○	○		○	○	
4									○

※重点実践目標および具体的目標については、「学校経営・運営ビジョン」参照

(2) アンケート及び回答数

対 象	中間評価のためのアンケート (7月実施)			年度末評価のためのアンケート (12月実施)		
	対 象 数	回 答 数	割 合	対 象 数	回 答 数	割 合
教 職 員	41	39	95.1%	39	38	97.4%
教職員	513	500	97.5%	508	490	96.5%
生徒						
以外	513	371	72.3%	508	349	68.7%
保護者						

(3) 評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	達成できた	やや達成できた	あまり達成できなかった	達成できなかった

3 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

教職員・生徒・保護者によるアンケート等により、重点実践目標がどの程度達成されているか、課題や改善点は何かを把握し、次年度の教育活動に反映させるために自己評価を実施した。

(2) アンケート結果の分析（別紙「学校評価のためのアンケート結果」参照）

○「そう思う」と「だいたいそう思う」割合の合計が高いアンケート項目

※（ ）はアンケート項目の番号

	教 職 員	生 徒	保 護 者
1 位	(8) 100.0 %	(1) 85.9 %	(1) 90.5 %
2 位	(2) 97.4 %	(8) 85.6 %	(4) 89.4 %
3 位	(1, 5, 10) 94.7 %	(4) 84.7 %	(10) 84.5 %

教職員、生徒、保護者によるアンケート結果において、評価が高かった内容は次のとおりであり、今後も継続して取り組んでいきたい。

- ① 進路希望に対応した教育課程
- ② 心身の健康に関する自己管理
- ③ 進路希望実現へ向けた積極的な支援、充実した学校生活

○「そう思わない」と「あまりそう思わない」割合の合計が高いアンケート項目

※（ ）はアンケート項目の番号

	教 職 員	生 徒	保 護 者
1 位	(9) 47.4 %	(9) 55.8 %	(7) 64.0 %
2 位	(7) 39.5 %	(7) 48.2 %	(9) 58.0 %
3 位	(6) 26.3 %	(6) 37.8 %	(6) 32.3 %

教職員、生徒、保護者からのアンケート結果から、次の3点についてこれまで以上に指導していく必要があると判断される。

- ① 読書に親しむ習慣や図書館の有効活用
- ② 家庭学習の習慣化
- ③ 開かれた学校づくり

(3) 達成状況、及び次年度へ向けての課題・改善点等

○ 礼儀を重んじた自律的な生活態度の育成【重点実践目標No. 1】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	2	2		

欠席・遅刻・早退者数は前年度に比較してやや減少したが、特別指導件数や服装頭髪指導での指導者数はほぼ同じであった。1・2学年は毎週合同SHRを実施して、生活上の注意や制服の着こなし等について指導した。2学期から変更された携帯電話の使用規程が守れず校舎内で使用している生徒がおり、制服の適正な着用を含めて全職員で指導を徹底する必要がある。

また、生徒数・教員数の減少により清掃区域の配当が従来通りにできなかったが、特別清掃等で対応することにより校舎内外で特に汚れが目立つところはなく、通常清掃ができていた。次年度はさらに減少するが一層工夫していきたい。

○ 学力の向上と進路指導の充実【重点実践目標No. 2】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	5	4	2	1

次年度以降の教育課程について検討し、より一層進路希望に対応できるように改善した。自習時間数が前年度比50%減少して授業時数が確保された。模試結果の分析を各教科で随時行い強化分野を確認しながら指導したが、今後、学年全体で検討する機会を設けるなど効果的な方法の研究に努めたい。

放課後自習や学習記録表の提出などを実施して指導したが、自学自習が定着していない生徒が多く見られ、家庭学習時間は全学年平均で週16時間と目標に達していない。1年次より早期に目標を決定させ、課題等の出し方を工夫するとともに、学習方法の工夫・改善について指導していく必要がある。

1学期は進路サポートや講演などにより進路学習が十分できたが、2学期以降は、インフルエンザによる学年閉鎖等によりLHRの時間を通して十分な指導ができなかった。放課後や休み時間等を利用して個別面談や三者面談を複数回実施し、学習指導や進路目標の確認・方向付けを行ったが、まだ進学先等がはっきり決まっていない者がいるため、次年度早い時期に面談を実施する必要がある。

○ 豊かな人間性の育成【重点実践目標No. 3】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	4	3	1	

各種行事を通して、級友との親交を深め、協力関係を築くことができた。図書館の広報紙を5回発行するとともに、進路対策の充実を図るため図書館に小論文コーナーを設置した。生徒数が減少した中、図書館利用者数は増加したが、1人当たりの貸出冊数は横ばいとなっているため、次年度、朝の読書の定着化を図り、貸出冊数の増加に努めたい。

健康診断後の治療済報告数が少ないため、担任及び部顧問と連携を図り、虫歯未処置者に通知することで処置者を増やすことができたが、未処置者0には至っていない。次年度は早めに通知したい。

カウンセラーによる教育相談は、悩み等を持つ生徒の手助けになった。また、保護者からの希望にも対応し好評であった。友人関係において、大きな問題はないものの、生徒間の携帯電話の使用によるトラブルが若干見られたので、HRや授業を通して指導していく必要がある。

○ 開かれた学校づくりの推進【重点実践目標No. 4】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数		1		

今年度、ホームページ委員会を設置し、1学期中にホームページの内容整理とデザインの刷新について検討し、2学期が始まってから新しいホームページに衣替えして情報の更新に努めた。次年度はさらに迅速な情報提供に努めたい。

平成21年度 学校評価のためのアンケート結果

評 価	A	B	C	D
評価目安	そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そう思わない

1 進路希望に対応した教育課程について

※ () は中間との比較

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	30.8 %	56.4 %	12.8 %	0.0 %
	年度末	23.7 %	71.1 %	5.3 %	0.0 %
生 徒	中 間	22.2 %	63.3 %	11.6 %	2.8 %
	年度末	23.1 %	62.8 %	11.6 %	2.5 %
保 護 者	中 間	19.9 %	69.9 %	8.2 %	1.9 %
	年度末	19.2 %	71.3 %	9.2 %	0.3 %

教職員95% (+8%) が進路希望に対応できるよう研究と改善に努めていると答え、生徒の86% (±0%)、保護者の91% (+1%) は、進路希望に対応できようような教科・科目が設定されていると回答している。

反面、そう思わない教員5%、生徒14%、保護者9%がいることも忘れてならない。進路希望実現に應えるために選択科目(3年文型選択の実技科目等)の見直しを含め、より良い教育課程を目指してさらなる工夫・改善を図っていく必要がある。

2 分かりやすい授業の実践について

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	25.6 %	66.7 %	7.7 %	0.0 %
	年度末	21.1 %	76.3 %	2.6 %	0.0 %
生 徒	中 間	17.0 %	63.9 %	16.2 %	2.8 %
	年度末	16.1 %	61.6 %	19.7 %	2.5 %
保 護 者	中 間	12.4 %	71.1 %	13.5 %	3.0 %
	年度末	13.3 %	70.1 %	14.8 %	1.7 %

教職員97% (+5%) は、「分かる授業」や質の高い授業を推進していると答え、生徒78% (-3%)、保護者の83% (-1%) も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

しかしながら、授業を受けている生徒22%、保護者の17%は、そう思わないと回答していることから、生徒・保護者からの要望・意見を真摯に受け止め、反省すべきところは反省して、教材研究をはじめとした授業内容の工夫・改善に努めなくてはならない。

3 高校生としてのマナーやエチケットの規範意識の指導について

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	35.9 %	56.4 %	7.7 %	0.0 %
	年度末	21.1 %	68.4 %	10.5 %	0.0 %
生 徒	中 間	23.6 %	58.4 %	14.6 %	3.4 %
	年度末	18.5 %	56.6 %	18.3 %	6.6 %
保 護 者	中 間	21.0 %	60.7 %	16.4 %	1.9 %
	年度末	14.3 %	63.0 %	21.5 %	1.1 %

教職員90% (-2%)、生徒75% (-7%)、保護者77% (-5%) が、ほぼ十分に指導が行われていると回答している。しかしながら、生徒25%、保護者23%が不十分と回答し、保護者からはもっと厳しく服装(特に女子の短いスカート)等の指導をしてほしいとの要望がある。

そのためには、学校では、共通理解の下に粘り強く、その時その場での適宜な温度差の無い指導が必要であり、家庭では、登下校時の制服姿を確認して注意していく必要がある。

4 進路希望実現へ向けた積極的な支援について

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	23.1 %	69.2 %	7.7 %	0.0 %
	年度末	28.9 %	63.2 %	7.9 %	0.0 %
生 徒	中 間	28.3 %	58.0 %	12.0 %	1.6 %
	年度末	28.6 %	56.1 %	12.9 %	2.3 %
保 護 者	中 間	22.9 %	64.0 %	11.7 %	1.4 %
	年度末	25.9 %	63.5 %	9.2 %	1.4 %

教職員 92% (±0%) が生徒の進路希望実現に対して積極的に支援していると答え、生徒の 85% (-1%)、保護者の 89% (+2%) が課外授業や講習等を積極的に行っていると回答している。

一方、生徒・保護者からは、進路に関する資料の提供や面談等の充実などの要望が出ていることから、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を行っていくことが大切である。

5 部活動の活性化について

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	28.2 %	71.8 %	0.0 %	0.0 %
	年度末	18.4 %	76.3 %	5.3 %	0.0 %
生 徒	中 間	29.1 %	43.1 %	19.2 %	8.6 %
	年度末	26.0 %	41.6 %	20.0 %	12.4 %
保 護 者	中 間	22.3 %	57.5 %	16.3 %	3.8 %
	年度末	25.2 %	49.0 %	21.8 %	4.0 %

教職員 95% (-5%) は、部活動の活性化を図り、豊かな人間性の育成に取り組んでいると答え、生徒 68% (-4%)、保護者の 74% (-6%) も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

反面、生徒 32% はそう思わないと回答しており、教職員との温度差が見られる。今以上に部活動指導の充実を図るとともに、生徒の悩みや相談に親身になって対応することが大切である。

6 開かれた学校づくりについて

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	7.7 %	64.1 %	25.6 %	2.6 %
	年度末	21.1 %	52.6 %	23.7 %	2.6 %
生 徒	中 間	10.0 %	56.0 %	27.4 %	6.6 %
	年度末	10.1 %	52.2 %	30.4 %	7.4 %
保 護 者	中 間	8.2 %	59.8 %	27.2 %	4.9 %
	年度末	9.0 %	58.7 %	30.3 %	2.0 %

教職員 74% (+2%) は、公開授業やホームページ、学年だより等による情報発信をしていると答え、生徒 62% (-4%)、保護者の 68% (±0%) も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

反面、生徒 38%、保護者の 32% は、そう思わないと回答しており、生徒・保護者からはきめ細かい情報発信についての要望も出されていることから、あらゆる機会を捉えて情報の発信(ホームページの更新)をするとともに、学校からの便りが確実に保護者に届くようにして、保護者との連携を一層図ることが大切である。

7 家庭学習の習慣化について

		A	B	C	D
教 職 員	中 間	12.8 %	48.7 %	35.9 %	2.6 %
	年度末	13.2 %	47.4 %	39.5 %	0.0 %
生 徒	中 間	9.4 %	38.7 %	37.7 %	14.2 %

	年度末	10.3 %	41.6 %	35.2 %	13.0 %
保護者	中間	5.7 %	28.6 %	44.3 %	21.4 %
	年度末	8.6 %	27.4 %	48.7 %	15.3 %

教職員61%（-1%）は、週20時間以上の家庭学習の習慣が身に付くよう課題を出すよう心がけていると回答している一方、生徒48%（-4%）、保護者64%（-2%）は、週20時間以上の家庭学習の時間を確保していないと回答している。宿題や週末課題を出すなど、教科指導やHR指導等において、なお一層の働きかけが必要である。

8 心身の健康に関する自己管理について

		A	B	C	D
教職員	中間	30.8 %	61.5 %	7.7 %	0.0 %
	年度末	18.4 %	81.6 %	0.0 %	0.0 %
生徒	中間	32.1 %	56.7 %	9.6 %	1.6 %
	年度末	29.8 %	55.8 %	12.6 %	1.9 %
保護者	中間	18.1 %	59.2 %	20.8 %	1.9 %
	年度末	19.3 %	59.4 %	19.6 %	1.7 %

教職員100%（+8%）、生徒86%（-3%）、保護者79%（+2%）が健康・安全について自己管理ができていると回答している。

一方、生徒14%、保護者の21%が心身の健康について自己管理しようとする態度が身に付いていないと回答している。

9 読書に親しむ習慣や図書館の有効活用について

		A	B	C	D
教職員	中間	7.7 %	51.3 %	38.5 %	2.6 %
	年度末	7.9 %	44.7 %	42.1 %	5.3 %
生徒	中間	9.6 %	36.2 %	34.2 %	20.0 %
	年度末	10.3 %	34.0 %	34.6 %	21.2 %
保護者	中間	11.1 %	29.5 %	40.8 %	18.6 %
	年度末	11.0 %	31.1 %	42.4 %	15.6 %

教職員53%（-6%）が読書への意欲を喚起し、生徒の44%（-2%）が図書館を有効活用している反面、生徒の56%、保護者の58%（-1%）が読書の習慣が身に付いていないと回答している。読書をする者、しない者の二極化が進んでいるようである。大学入試等における小論文対策としても読書が重要であることや、図書館の小論文コーナーが充実されたことなどを、教科指導やHR指導等を通して説明していきたい。

10 充実した学校生活について

		A	B	C	D
教職員	中間	15.4 %	79.5 %	2.6 %	2.6 %
	年度末	10.5 %	84.2 %	5.3 %	0.0 %
生徒	中間	29.8 %	54.4 %	12.4 %	3.4 %
	年度末	29.1 %	50.6 %	13.9 %	6.3 %
保護者	中間	34.2 %	53.9 %	9.4 %	2.4 %
	年度末	27.6 %	56.9 %	13.5 %	2.0 %

教職員95%（±0%）は、生徒とのコミュニケーションを図り、いじめ等の未然防止に努めていると回答し、生徒80%（-4%）、保護者の85%（-3%）も、「学校が楽しい」「楽しく学校へ通っている」と答えている。

一方、教職員の5%、生徒20%、保護者の15%が、そう思わないと感じていることも忘れてならない。次年度に向けて、各部・学年の組織としての役割や責任をなお一層果たしていくことが重要である。